



【受式者】馬場 河南子（ばば かなこ）さん（左） [九州教区熊本東組光行寺門徒]

【法 名】釋尼和敬（しゃくにわきょう）

【受式者】荒井 朋子（あらい ともこ）さん（右） [九州教区熊本東組光行寺門徒]

【法 名】釋尼朋友（しゃくにほうゆう）

—今回の奉仕団での上山を含め、お寺とのご縁を教えてください。

河南子さん 主人を亡くして一年経った頃、自分が何をしたいか、どこに行っていきたいかわからなくなりました。そして、お寺に足を運んだんです。本堂のご本尊の前に座ったら、涙が止まらなくなりました。ふと目を上げると、視線の先に阿弥陀如来の足が見え、「阿弥陀さまの足元に行きたい」と思いました。住職さんはその間、ずっと私のそばで黙って寄り添ってくださったんです。その日以降、お寺に行くようになり、今回の真宗入門講座にも声をかけていただきました。

朋子さん 真宗入門講座前期教習受講後、立て続けに父と母を亡くしました。叔父（河南子さんの夫）のお葬式がご縁で、父と母の葬儀も光行寺さんにお世話になりました。お寺って敷居が高くて、お坊さんには話しかけづらいイメージだったのですが、住職さんは何度も車を走らせて熊本から福岡の斎場まで来てくださいましたし、仏事についてわからないことをお聞きすると、丁寧に答えてくださいます。住職さんのあたたかなお人柄を通して、お寺に対するイメージは一変しました。叔母の付き添いのつもりで真宗入門講座に参加していたので、まさか自分が東本願寺に来るなんて思ってもみませんでした。父と母に導かれたような気がしています。

—住職さんから、法名に込められた願いが書かれたお手紙をいただかれたそうですね。

朋子さん 受式した 5 人のご門徒お一人お一人に手書きでお手紙をくださいました。これからの人生、朋と友を大切に生きていきたいと思います。

河南子さん どんな法名をいただけるのか、ずっと楽しみにしていました。法名もお手紙も、とてもうれしかったです。これからもお念仏の教えに親しみ、敬っていきたいです。

河南子さん・朋子さん 光行寺とご縁ができて、本当によかった。

—これから大切にしたいことを教えてください。

河南子さん 私はお仏壇のない家で育ちました。だから、この歳になって初めてお念仏の教えに出あって、自分は今まで何を大切なこととして、何を正しいと思って生きてきたのか、はっとさせられてばかりです。もっと子どもの頃に出あいたかった。でもね、ぼやぼやしていられない。次から次へと知りたいことが出てくるんです。これからも、知りたいこと、お話を聞いて感動した気持ちを一人で抱えるのではなく、仲間と一緒に確かめていきたいです。

朋子さん 東本願寺の建物や歴史を自分の目で見て触れ、「私の生活と親鸞聖人」をテーマにお話を聞くことを通して、悩みを抱えながら師と出会い、生活の中で仏教を大切にされた親鸞聖人が身近な存在に感じました。叔母が言うように、若い時だからこそ、次は子どもたちと一緒に真宗本廟奉仕に来たいです。